

金融リテラシーと株式投資



ハートライフ病院 佐久川 廣

最近、金融リテラシーという言葉をよく耳にする。社会人として最低限身につけるべき金融や経済に関する判断力などを指し、経済的に自立し、より良い暮らしを送っていく上で欠かせないスキルと言われている。日本人は金融リテラシーが低いという調査結果が出ている。海外では小学校の授業で金融の基礎知識を教えており、親が子供にお小遣いを運用させる教育も珍しくないと聞く。一方で、日本人はお金の話を避ける傾向にあり、勤勉で清く正しく生きることを美德としている。日本銀行がまとめた2021年版「資金循環の日米欧比較」によると預金・現金による資産構成比率は、日本：54.3%、米国：13.3%、ユーロ圏：34.3%で、日本が断トツに高い。

日本では株式投資に対する良いイメージはなく、株にのめりこんで資産を食いつぶしたというような事例がよく話題になる。株式投資はギャンブルと考えている人が多い。確かにハイリスク・ハイリターンな株もあり、ギャンブル性もあるが、多数の株式を組み入れた投資信託もあり、リスクを分散することも可能である。堅い商売で知られる銀行も盛んに株式投資をして、客から預かったお金を株で運用している。年金の一部は株で運用されていることはよくご存じのことと思われる。これだけ低金利の時代に銀行に預けるのは機会損失のリスクを背負うことになる。株価は上がり下がりがあるが、長期的にみればどの国の株も右肩上がりである。米国株が右肩上がりなのはよく知られているが、日本株もバブル後の長期トレンドは右肩上がりである。

先日、預金通帳を見る機会があった。何気なく眺めていると半年に1回の割合で利息という

文字が印字されており、その右側に一桁の数字が印字されていた。銀行預金の利息は預けている金額にもよるが、年間で10円くらいである。10円玉が道に落ちていても拾うかどうか迷うところであり、その程度の利息しかつかない。今時給与を現金で受け取る人は少数なので、毎月の給与が銀行に振り込まれることになり、その中から月々の生活費を賄い、余ったお金が預金として残る。したがって、能動的に預金しているわけではないので、利息を気にする人は少ないと思われる。

能動的な預金として定期預金がある。先日、機会があってその利息を教えてもらった。銀行によって多少違いがあるが、年率0.002%であった。例えば、10億円が手許にあったとして、それを全額定期に預けても、10年間で得られる利息は20万円くらいである。流石に10億円という我々庶民には縁のない金額を預けた場合は、お小遣い以上にはなる。しかしながら、その金額では、国内の一人旅でも早割などの特典を使って、かなり質素なものになる。

資産運用という言葉をよく耳にする。資産家の余ったお金が株などで運用されているということで、庶民には関係ないと思っている人も多い。しかしながら、資産運用は我々庶民の生活に直結している。例えば、マイホームを購入するときローンを組むが、頭金を用意するのが一般的である。頭金が多いほどローンの支払いが楽になるので、大きな買い物をする前にはせせと貯金する。今の金利でただ銀行に預けているのは芸がない。資産をうまく運用する必要がある。

10年程前から株式投資をしている。投資信託が主であるが、個別銘柄も購入している。株

式投資は株価の変動によって資産が変わってくる。株価が上がっていけばその分資産が増えることになる。また、株価が上がらない場合でも配当金が入るので、その分は儲けになる。銀行に預金しても利息はほとんどもらえないが、銀行株、特にメガバンクは配当金が高く、年率の配当金は株価の4～5%くらいになる。したがって、単純に考えれば、預金するお金で銀行株を購入すればいいことになる。友人にそのことを話したら、納得して株を購入したらしい。しかしながら、不幸なことにその後メガバンクの株が急落した。銀行預金は元本が保証されるが、株の場合、株価が下がるリスクが常にあるので、当然のことながら元本は保証されない。株を買った会社が倒産すれば、その株は無価値になるが、倒産しなければ全額失われるわけではない。したがって、経営の安定している会社の株であれば、株価が下がっても持ち続けるとい

う選択肢もある。幸いにもその後株価は持ち直し、友人からの文句も少なくなった。安易にリスクのある金融商品の購入を勧めるべきではないと反省しているが、投資は常に自己責任である。どんな場合でも他人に責任を転嫁することは出来ない。

日本はバブル崩壊後長期にわたって経済が停滞し、デフレ基調になった。デフレであれば現金の価値は相対的に上がるので、利息の付かない預金も合理的である。しかしながら、経済の成長とともに緩やかなインフレになるので、現金の価値は相対的に低下する。2013年頃から日本経済は回復基調にあり、新型コロナウイルスの流行で一次的に日経平均が急落したが、現在は回復している。ガソリンをはじめ、商品の価格は高騰し始めている。デフレからの脱却は喜ぶべきことであり、資産運用を見直すチャンスでもある。

